

地元活性化へ私たちの声

新庄北高生が 市長らに提案

新庄市の新庄北高（柿崎則夫校長）地域探究部員が22日夕、地元の活性化に関する研究発表をオンライン形式で行った。同校と市役所を結び、山尾順紀市長らが若者の生の声を受け止め、激励した。

同部の部長で2年中島諒さん（17）ら部員6人は同校で、山尾市長をはじめ高野博教育長、渡辺安志総合政策課長が市役所それぞれで画面を通じてコミュニケーションを図った。「新庄市に私たちの声よ届け！」との研究テーマで部員たちが発表。最上地域に定住した人や同校の生徒、保護者に行つたアンケートを踏まえ、「子育て世帯専用住宅を整備する」「高校生が自由に利用できる学習スペースを市内に設ける」ことなどを提案した。校外の学習スペースを設置する提案について、山尾市長は「ゆめりあ、こまつせ新庄など目的にかなう施設がある。新たな施設を造るとなれば、維持管理面も併せて考える必要がある。



新庄市の活性化策についてオンラインで発表する新庄北高地域探究部員たち
（佐々木亨）

て」とエールを送った。発表後、中島さんは「自分たちの世代に期待していること」と話した。
（佐々木亨）

税金の使い道として良いのかどうかが大切」と教えた。加えて「皆さんの提案でまちが変わる。新庄の住みよさといった良い点を見つけ、これからも探究を続け